

平成28年度実践報告集

時計台

全校研究テーマ

児童生徒の特性とニーズに応じた教育

<小学部研究部会>

基礎的な身体の動きを育てる「朝の運動」

<中学部研究部会>

「生活する・働く」「喜び・意欲」を育む作業学習

～中学部の作業学習で大切にすべき視点とは～

<高等部研究部会>

「生徒が主体的に取り組むことのできる作業学習を目指した授業」

を考える

<重複学級・訪問学級研究部会>

児童生徒一人一人のコミュニケーション能力を生かすための授業

平成29年3月

千葉県立富里特別支援学校

新たな富里特別支援学校の出発に向けて

校長 佐々木 亮夫

本校が昭和63年4月1日に県立印旛養護学校から分離し、開校した時には児童生徒数が106名でスタートしました。その後、特別支援教育の制度化とともに、過密状況になり、今度は本校から県立栄特別支援学校が分離し、いよいよ4月1日に開校する運びとなりました。奇しくも栄特別支援学校も100名規模での開校となります。

本年度も引き続き、研究テーマに「児童生徒の特性とニーズに応じた教育」を掲げ、小学部、中学部、高等部、AC学級(重複学級)毎に研究を進めてきました。

小学部では「基礎的な身体の動きを育てる朝の運動」

中学部では「生活する・働く」「喜び・意欲」を育む作業学習

高等部では「生徒が主体的に取り組むことのできる作業学習を目指した授業」

AC学級では「児童生徒一人一人のコミュニケーション能力を生かすための授業」というサブテーマのもと、授業の充実をめざして、授業研究会・研究協議会に取り組んだ成果が本日、研究紀要「時計台」という形となりました。

特に全体研究会の際には、学部の枠を取り払い、グループを編成して、協議の柱(例：生徒が主体的に取り組むことのできる作業学習を目指した授業は行えていたか?)をもとに、活発な協議を行いました。他学部から見た視点、普段気付かない視点など、グループでの協議形式にすることで、多くの意見を吸い上げることが出来たと感じています。

児童生徒の健やかな成長、自立に向けて、日々の授業の充実が何より重要であり、今後も続けていかなければなりません。

本校は4月1日からは児童生徒数が約170名規模の学校として再スタートします。250名を超える過密状況から約80名以上、児童生徒が少なくなります。教室不足等の学習環境も飛躍的に改善します。今まで、過密状況で様々な学習活動が制約を受けているという言葉は次年度からは使えなくなります。

児童生徒一人一人の教育的ニーズに沿った教育の実現という特別支援学校で当然、果たさねばならない使命をより次年度は充実させなければなりません。

まさに新たな富里特別支援学校のスタートとなります。

新学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童生徒約170名に合った教育課程の編制、授業の改善を引き続き検討する上で、今年度の研究の成果を残された教職員がどのように引き継いでいくかが鍵となります。

引き続き、多くの御示唆、御助言を頂ければ幸いです。

最後に本校の研究を支えてくださった筑波大学体育系准教授 澤江幸則先生、就職するなら明朗塾障害者就業・生活支援センター長 山本樹先生、教育庁教育振興部特別支援教育課指導主事 保科靖宏先生並びに小倉京子先生に厚く御礼申し上げます。

平成29年3月

目 次

はじめに

平成28年度の研究について

- 1 研究テーマ
- 2 研究の目的
- 3 研究の進め方
- 4 研究を進める組織
- 5 授業研究会講師
- 6 年間計画
- 7 本年度のまとめ

小学部研究部会

- | | | |
|------------------------------|-------|------|
| 1 小学部の研究について | ----- | 小 1 |
| 2 年間計画 | ----- | 小 1 |
| 3 日課表 | ----- | 小 2 |
| 4 「朝の運動」について | ----- | 小 3 |
| 5 「朝の運動」学習指導案 | ----- | 小 4 |
| 6 まとめと今後の課題 | ----- | 小 14 |
| 資料1 小学部で取り組みたい運動一覧 | ----- | 小 16 |
| 小学部重複4・5組「からだづくり」で取り組みたい動き一覧 | | |
| 資料2 平成29年度年間指導計画 | ----- | 小 20 |
| 資料3 チェックリスト | ----- | 小 24 |

中学部研究部会

- | | | |
|---------------------|-------|------|
| 1 中学部の研究について | ----- | 中 1 |
| 2 年間計画 | ----- | 中 1 |
| 3 研究の進め方 | ----- | 中 3 |
| 4 普通学級の日課表 | ----- | 中 4 |
| 5 「働く」とは | ----- | 中 5 |
| 6 「環境や人との関わり」に関すること | ----- | 中 11 |
| 7 まとめと今後の課題 | ----- | 中 14 |

高等部研究部会

- | | | |
|---------------|-------|------|
| 1 高等部の研究について | ----- | 高 1 |
| 2 年間計画 | ----- | 高 1 |
| 3 普通学級の日課表 | ----- | 高 2 |
| 4 作業学習について | ----- | 高 2 |
| 5 作業学習学習指導案 | ----- | 高 3 |
| 6 まとめと今後の課題 | ----- | 高 11 |
| 資料 作業連絡会内容シート | ----- | 高 21 |

重複学級・訪問学級(AC学級)研究部会

- | | | |
|-----------------|-------|-------|
| 1 AC学級の研究について | ----- | AC 1 |
| 2 年間計画 | ----- | AC 1 |
| 3 AC学級の日課表 | ----- | AC 2 |
| 4 AC学級の自立活動について | ----- | AC 3 |
| 5 自立活動学習指導案 | ----- | AC 4 |
| 6 自立活動題材例 | ----- | AC 15 |
| 7 まとめと今後の課題 | ----- | AC 18 |
| 資料 コミュニケーション実態表 | ----- | AC 21 |

おわりに

研究同人

平成28年度の研究について

本校では「児童生徒の特性とニーズに応じた教育」を全校テーマとし、各研究部会で対象となる授業を取り上げ、サブテーマを設定して研究活動に取り組んだ。

1 研究テーマ

「児童生徒の特性とニーズに応じた教育」

各研究部会サブテーマ

- 小学部研究部会 基礎的な身体の動きを育てる「朝の運動」
- 中学部研究部会 「生活する・働く」「喜び・意欲」を育む作業学習
～中学部の作業学習で大切にすべき視点とは～
- 高等部研究部会 「生徒が主体的に取り組むことのできる作業学習を目指した授業」を考える
- AC学級研究部会 「児童生徒一人一人のコミュニケーション能力を生かすための授業」

2 研究の目的

(1)多様なニーズに応じた指導の充実

現在、特別支援教育においては、児童生徒の障害の多様化等により教育的ニーズが多様化し、一人一人の特性やニーズに応じた指導・支援が一層求められている。研究活動を通して私たち教師が、児童生徒の特性やニーズに基づいた個別の指導計画等の教育計画を立案し、実践できる力をつけていくことを目的とする。

(2)授業実践を通した授業力の向上

研究活動を通して、より良い授業の在り方を研修し、指導の充実や授業力の向上を図っていくことを目的とする。また、研究活動で実践してきたことにより出てきた課題を改善して維持したり、引き継いだりできるようにしていく。

3 研究の進め方

(1)小学部・高等部・AC学級研究部会においては、授業研究を行う。

小学部研究部会では体育(朝の運動)、高等部研究部会では作業学習、AC学級研究部会では自立活動についての授業研究を行う。具体的な授業研究の方法は各研究部会ごとに検討し実施する。授業研究会のうち1回を全校研究会とし、他の研究部会の研究内容について知り、研究を深める機会とする。

(2)中学部研究部会においては、学部としての作業学習のねらいや視点を明確にする。

中学部研究部会では作業学習について取り上げ、今年度は授業研究は行わず、授業実践と並行して、研修会や協議会を行う。具体的な方法は中学部研究会で検討し実施する。

(3)1年間の研究内容について実践報告集にまとめる。

1年間の取り組みをテーマに沿って整理してまとめ、実践報告集に掲載する。研究部会ごとに指導案や支援の内容表、「授業内容・題材例」など、内容を工夫し、今後の指導の参考となるようなものとする。

4 研究を進める組織

- 〈研究推進委員会〉 校長、教頭、事務長、主幹教諭(教務主任)、副教務、部主事、研究主任、研究副主任
- 〈研究係会〉 各研究部会の研究係
- 〈研究部会〉 小学部研究部会、中学部研究部会、高等部研究部会、AC学級研究部会

5 授業研究会講師

- ・小学部研究部会講師 澤江幸則先生(筑波大学体育系准教授)
山村志穂先生(本校教諭)
- ・中学部研究部会講師 山本樹先生(就職するなら明朗塾センター長)
山崎博志先生(本校教頭)
- ・高等部研究部会講師 小倉京子先生(千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課指導主事)
- ・AC学級研究部会講師 保科靖宏先生(千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課指導主事)

6 年間計画

研究推進委員会、全校研究会

日 程	内 容	講 師
5月 2日(月)	研究推進委員会 本年度の研究について	
6月 1日(水)	全校研究会① 本年度の研究について	
7月26日(火)	全校研究会(中学部)	山本 樹先生
10月 5日(水)	全校授業研究会(小学部)	澤江幸則先生
10月24日(月)	全校授業研究会(AC学級)	保科靖宏先生
11月22日(火)	全校授業研究会(高等部)	小倉京子先生
2月22日(水)	研究推進委員会 本年度のまとめと次年度の研究について	
3月 1日(水)	全校研究会② 本年度のまとめと次年度の研究について	

7 本年度のまとめ

本校の研究は、全校研究テーマのもと各研究部会でサブテーマを設定して取り組む方法をとって6年目になる。各研究部会で全校研究テーマの追究に適している授業を研究対象にし、教師がより意欲的に研究活動に取り組むことができるよう、各研究部会で研究の方法を工夫して取り組んできた。また、全校授業研究会では、縦割りでのグループ協議の方法を採ることで、多方面からの意見を引き出すことができた。これまでの研究を通して得た考え方や指導の手立てを様々な授業に広げていくことができれば、より充実した指導が継続して行われるようになると思う。

今年度は、「児童生徒の特性とニーズに応じた教育」という全校研究テーマのまとめの年として位置づけ、研究活動を行ってきた。教育課程の再編制を踏まえながら研究を行った部会もあれば、昨年まで取り組んできたテーマを引き継ぎつつ新たな視点を加えて研究を行った部会もある。今年度の研究成果と課題については、各研究部会の報告を参照していただきたい。

来年度は、栄特別支援学校の開校に伴い、本校の在籍数が減ることから学習環境が変化していくと思われる。その中で今年度までの研究で培ってきたことを土台とし、変化に対応しながら児童生徒が豊かに生きることへつながる研究に取り組んでいきたい。

あとがき

今年度の「児童生徒の特性とニーズに応じた教育」を全校研究テーマとして学部ごとに研究を推進し、実践をとおして、課題を追及してきたものを平成28年度実践報告集「時計台」としてまとめることができました。

小学部は、昨年度に続き、授業の中で、いろいろな動きに視点をおき、基礎的な動きを育てる「朝の運動」を目指した研究を進めました。「小学部で取り組みたい運動一覧」を作成し、発達段階や生活年齢毎に内容が整理されたことで、授業を具体的に計画し実践することができました。

中学部は、『生活する・働く』『喜び・意欲』を育む作業学習をテーマに作業学習のねらいを明確にし、グループディスカッションを中心とした協議会を重ね、作業学習の「ねらい」や視点について意見交換をしました。授業にどう反映させたか共通理解を図り、「できているところ」と「課題」を照らし合わせ、ねらいや視点をより実現するために、今必要なこと、今後重視していくこと等を明らかにすることができました。

高等部は、昨年度に引き続き、「生徒が主体的に取り組むことのできる作業学習を目指した授業」をテーマに、生徒が主体的に取り組むことができる観点を「単元の盛り上げ方の工夫」「作業連絡会の充実」「全作業班への講師助言」とし、課題への取り組みを意識しながら授業実践に取り組みました。一人一人にあった作業学習の実践のため、単元ごとに作用班で話し合いを持ち、授業づくりを行い、生徒に合った作業内容や支援方法を検討し、自ら取り組む場面を共通理解しながら、授業の質の向上を目指していくことができました。

重複・訪問学級は、児童生徒一人一人のコミュニケーション能力を生かすための授業実践に取り組み、個々の表出への気づきや受け止めから自らの表出しようとする力へ、そして、やりとりをする対象の広がりへとねらいの柱をたてて実践してきました。コミュニケーション実態表等を基に、やりとりの経験を増やし、職員間の役割分担や、指導・評価の統一をしていくことを再確認できました。

授業を実践するまでには、一歩ずつ進めていく過程があります。授業の構想をし学級や学年、作業班、学部等で話し合い、指導案を作成し、授業展開して意見を聞く。児童生徒の学校生活を充実させるための授業の実践をとおしての一歩ずつの歩みを止めることなく積み重ねていくことが、日々の授業を確実なものにし、児童生徒の成長につながると思います。

この冊子は、本校がどのようなことに取り組んできたのか、どのような子どもたちの姿が見られたのか、授業が行われてきたのかについてまとめたものです。平成29年4月からは、栄特別支援学校との分離後の新たな富里特別支援学校のスタートとして、今年度の実践を糧に継続して取り組んで参ります。

最後に本校の研究のために御指導・御助言をいただきました、筑波大学准教授 澤江幸則先生(小学部)、就職するなら明朗塾 障害者就業・生活支援センターセンター長 山本樹先生(中学部)、千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課指導主事 小倉京子先生(高等部)、千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課指導主事 保科靖宏先生(重複・訪問)に、心より感謝申し上げます。

平成29年3月

教頭 高尾 早苗